

意見陳述(案)

東京に約50年前から八ツ場ダム計画がのしかかっていたことを、私は約1年半前まで全く知りませんでした。本当に無知だったと思います。2003年11月、初めて川原湯温泉を訪ね、紅葉に彩どられた溪谷を目の当りにして、ここにダムを造って自然を破壊し、温泉街を水没させるなんて絶対に認めるわけにいかないと決心しました。この半世紀、社会的にも経済的にも極めて著しい変化があり、東京都はすでに水源を十分に保有しています。水需要も伸びていないうえ、2015年をピークに人口減が予想され、水余りの時代になると予測されています。東京都はこうした現実にもとづいたダム計画の見直しや十分な検証もしないまま、総事業費の増額に同意して、その負担を一方的に納税者に転嫁しようとしています。到底納得のいくものではありません。

また市民活動を通して得られた実感から、水の使用量は減少していく一方で、新たなダムを造ることはまったく税金のムダ使い以外の何ものでもありません。そのことを声を大にして訴えるため、本日、私はこの場に立っています。

私は10年前から「都市の水源自立をめざして、雨水を資源として活用しよう」という市民運動に参加してきました。東京に降る雨は年間約25億トン、都民の水使用量約20億トンをはるかに上回る量です。そのほとんどが地下にもどされることなく、巨大な排水システムにより下水として捨てられています。その一方で巨額の税金を投入して、自然破壊して造ったダムに水源を依存している大都市のあり方は、なんと不合理なことでしょう。コンクリートとアスファルトで固め、健全な水循環を断ち切っている都市構造は、集中豪雨に見舞われればたちまち都市洪水をひきおこします。

もし雨を排除するのではなく、水資源として貯留し、活用するならば、東京の水事情は大きく変わる可能性を秘めています。

私たちは、「遠くのダムより、身近かに水源を！」という合言葉で、各家庭で200リットルの雨水タンクを設置しようと呼びかけて来ました。屋根と雨桶さ

えあれば、バケツから大型タンクまで自由自在に雨水を貯めることができます。災害時には飲み水としても活用できるので、助成金制度を導入して、普及につとめる自治体が東京でも、9つにのぼっています。

両国の国技館、東京ドームの雨水利用はよく知られていますが、学校、公共機関、集合住宅でのトイレ用水に雨水を利用する施設の増加は目立って来ました。我家でも5年前から駐車スペースの下に2トンのコンクリート槽を設置して、トイレ用水はすべて雨水だけで賄っています。

循環型社会をめざしている東京都が、先頭に立って雨水利用政策を推めれば、民間施設、個人住宅での件数は飛躍的に上昇するでしょう。雨水を貯めて、活用することから学ぶ水の大切さは、都民の節水意識を高めて、今後更に水需要の低減に拍車をかけるのは必至です。

もはや、東京都民にとって、新しい水源開発となる八ツ場ダムは必要ありません。直ちに、公金支出を差し止めて下さるようお願いいたします。

これから私たちが為すべきことは、50年にわたって八ツ場ダム計画のために生活と人生設計を踏みにじられてしまった地元住民の方々へ、最大限の償いをすることではないでしょうか。と同時に今後の生活再建のために、十分な補償を行うよう国と関係自治体に責任をとらせることではないでしょうか。

そのためにも、八ツ場ダムが必要ない、有害でさえあるという事実を十分検証して下さいよう要望して、私の意見陳述を終わります。

2005年2月16日

田 中 清 子